

平成23年度一般会計決算認定討論

反対討論

高木 教夫

年度内補正予算が9億1828万9千円で不用額が約1億6千万円もあり年度内の補正予算が適正なのかを十分検討して25年度の予算に反映させる様な兆しが見て取れず、学校建設費は付帯決議付きで可決された1億1千万円の予算が明許繰り越しとなり、全くもって無意味拙速な予算であったと思われます。財政調整基金の積み立てが約30億円で、税金関係、国保、介護保険料等払いたくても払えない世帯に対する対策がなされていない23年度決算には反対の立場を取らせて頂きます。

反対討論

八木 修

能勢町の人口は15年先には8000人を割る予測すら出ている中、学校建設等に起債（借金）を30億円ほど見込み、総額では70億円にもなる。単純な人口減少ではなく少子化、高齢化も加わり、残された町民がこれから20数年間借金を返していかなければならない。町長はこの年度の町政運営方針で、経済成長ではない豊かさを求めていくと言い、折しも東日本大震災、その後の原発事故を受け、みんなが豊かさとは何かを考えさせられ、これまでと違う価値観を持ち始めたのに、残念ながらその価値観が変わらなかったのは能勢町だ。

賛成討論

美谷 芳昭

23年度決算は、能勢新学校建設にかかる基本・実施設計業務の着手や、火葬場予定地の測量業務、新し尿処理場の竣工など、本町の抱える懸案事項が順次解決、また解決に向けて着手するための予算執行であったと思う。

歳入は、地方税が減少して、依然交付税に頼っているものの、財政指標は問題ないが、今後より一層行財政改革が必要で「身の丈にあった予算執行」すべきと思われる。

23年度の執行は、効果が上がっているものや、次年度にむけて検討を要するものもあるが、総じていえば、おおむね適正に執行されているものと解されるので、賛成の討論とする。

賛成討論

谷 義樹

先ほど反対討論で、議会の決定を重視するということが言われていましたが、そういう意味では、平成23年度予算は、まさしくその議会で議論され決定されたものです。また監査報告にもあるように、会計処理上も問題ありません。ただ内容面では、各常任委員会ですまざまな問題点が議論されました。その内容を、今後十分に生かしていただきたいという要望を沿え、賛成討論とさせていただきます。

環境教育常任委員会報告

委員長 原田 健志

開催日 7月31日

『農業振興（農業振興調査研究業務）』について、2月2日の委員会に引き続き調査を行いました。

- ・ 調査内容は、
農家意向・認定農業者聞き取り・大阪北部農協聞き取りの各調査、先進地事例調査・視察、農地の利用集積対策等から、能勢町における今後の農業振興施策の現段階の検討状況について。
 - *農用地の利用集積化への検討
 - *農業公社・第三セクターなどの組織体や設備等の検討（問題点やメリット・デメリットの整理）
 - *戦略作物の選定・栽培規模の検討
 - *地域ブランド化及び近郊農業として6次産業化の検討
- ・ 農業振興による地域活性化に向けた能勢町の役割として、農業基盤の強化、農業の担い手の確保、農作物の地域ブランド化・6次産業化をあげ、内容の検討を進めている。
- ・ 今後、今年度中に決定を予定する項目は、
 - ①農業公社の組織の受け皿の決定
 - ②農地利用集積に向けた受け皿の決定
 - ③耕作放棄地等の解消に向けた制度の予算化

委員会では、説明を受けて農業振興について、質疑や幅広く意見交換を行いました。